

大英博物館所藏太平天國史料

文學博士 内 藤 虎 次 郎

大正十三年十二月、巴里に居つた頃、ポール、ペリオ氏は余に問て、倫敦で敦煌古書の外にどんなものを見たかといはれたので、余は太平天國史料、ゴルドン文書を殆ど全部瀏覽し、七八分通りは鈔録したのが、最も興味ある仕事であつたと答へた處、それはいゝことをした、歐羅巴に保存されて居る支那史料で、支那に類のないものが二つある、一は即ちブリチシュ、ミューゼアムに存する太平天國史料、及びゴルドン文牘で、一は巴里のビブリオテーク、ナシヨナル等に存するジエスキト宣教師の報告文集である、君が其一を逐録し得たのは幸である。大英博物館に藏せらるゝ太平

天國史料はかばかり彼地學者に重要せらるゝ者であるが、この史料の逐録に最初手を着けたのは、慶應大學の故法學博士田中萃一郎氏である。氏の逐録せられし史料の目錄は、現に巴里に留學中の故博士門人松本信廣君の好意により、幸田成友君宮島貞亮君等の手を煩して、最近に其の大略を知ることを得た。又朝鮮總督府修史官稻葉岩吉君は嘗て南滿鐵道會社の重役たりし久保要藏君が倫敦に在りし頃、それに屬して、同じく太平天國史料を大英博物館に就て逐寫せしことがあるので、其の一部分は之を借覽せしとありしも、未だ其の全部の目錄を觀たことがないから、目下其の借覽を

交渉中である。かくて行々はこの三様の寫本を校對して、完全なる底本を作り、學界に發表するつもりであるが、ともかく余が逐録した分の大要をこゝに掲げることにする。

前に太平天國史料、ゴルドン文牘といったが、史料の性質よりいふも、其の大英博物館に入つた由來よりいふも、やはりかく兩様に分ける方が便利である。前者の太平天國史料の蒐集者は何人であるか詳かでないが、當時に在りて太平天國が頒布せし詔勅、制度等に關する、印刷物、並びに傳抄書類より、天國亡滅の後、忠王李忠成の口供として兩江總督曾國藩より上りし印刷文書等までを一括し、大英博物館に歸入せし人があつたらしく、此は天國側の文書に屬するものである。後者のゴルドン文書は、將軍ゴルドンが支那より歸國したる後、其の常勝軍を帥ゐて天國討伐に従事せし際、李鴻章、程學啓を始め、其他の將帥、さては天國の

蘇州守備の將帥より自己に贈つた文書類を一括して、之を大英博物館に寄贈した者である。

太平天國の印刷詔書は「旨准頒行詔書總目」として時々其詔書の冊首に掲げられて居る太平天國壬子二年の奉天誅妖救世安民の首に在る者は十四部であるが、癸好好は丑の換用字三年の「建天京於金陵論」の首には貳拾捌部を擧げ、同年の「貶妖穴爲罪隸論」の首には貳拾玖部、乙榮榮は卯の換用字五年の行軍總目の首には貳拾肆部を擧げて居る。今其の最も多き貳拾玖部の分を左に録す。

旨准頒行詔書總目

天父皇帝言題皇詔

天父下凡詔書 貳部

天命詔旨書

舊遺詔 聖書

新遺詔 聖書

天條書

太平詔書

欽定制度則例集論

太平禮制

武略書

太平軍目

醒世文

太平條規

王長兄親目親耳共證福音書

頒行詔書

旨准頒行共有貳拾玖部

頒行曆書

三字經

以上の中、天命詔旨書、太平詔書、太平禮制、

幼學詩

太平條規、頒行詔書、三字經、天朝田畝制度は全

太平救世詔

建天京於金陵論

部逐録し、舊遺詔聖書、新遺詔聖書、建天京於金

貶妖穴爲罪隸論

陵論、貶妖穴爲罪隸論、詔書蓋璽頒行論、天道情

詔書蓋璽頒行論

理書、御製千字詔、行軍總要、天父詩、武略書、

天朝田畝制度

王長兄親目親耳共證福音書、及び頒行曆書は、其

天理要論

一部分を鈔録して、内容の如何を窺ふに便する丈

天情道理書

に止めた。この中で舊遺詔聖書といふは、即ち舊

御製千字詔

約全書馬太傳福音書の翻譯であり、又武略といふ

行軍總要

は孫子、吳子、司馬法等の古き兵法書を印刷頒布

天父詩

したのである。

偽忠王親筆口供といへる一冊の印本は曾國藩が
平定髮逆奏疏と共に朝廷に上りし者らしく、之を
近年「中國秘史」に載せたる者に比すれば、やゝ詳
密にして、かの書の原本なることを知ることを
得。又欽定士階條例は天國十一年辛酉の頒行にし
て、其の新たに定めたる科擧の事を告示せる者な
るが、其の大意を知るべき序文を鈔録して、條例
三十四條は之を略した。又幼主詔書と題する一冊
には、見返しに

天王詔旨

朕命幼主寫詔書

須婿萬信脫迷途

遼此十救詔習鍊

上天常生福長悠欽哉

とありて板心に十救詩と記したるが、廣西の土語
を以て文を成せる如く、甚だ解し難き者である。
又寫本にて、天王詔旨、幼主詔旨、を輯録したる

一冊あり。當時鈴印頒布したる

天王詔旨五通、救世眞聖幼主詔旨一通、干王贊王貳天

將讀論一通、朝天朝主圖一通

等の實物は之を全録した。

余が一部分だけ逐録せし者で、田中博士が全録
して置かれた者あるは勿論、余が全く逐録せざり
し者にて、天父皇帝言題皇詔、天父下凡詔書、太
平軍目等は、田中博士の逐録本により、之を補ふ
ことを得べしと期待して居る。其外稻葉氏の寫本
によりて補ひ得べき者もあるであらう。

ゴルドン文牘の内容は左の如きものである。

張遇春一通 程學啓廿通零殘四通 周興隆二通 黃芳

一通 郭松林四通 李恒嵩六通 李鶴章十二通 賈益

謙一通 李鴻章四通又批五札一告示一 羅榮光一通又

移一 恭王譚紹沈一通 丁日昌二通 錢德承一通 楊

鼎勳一通 崇厚三通章服單一通 抄錄偽忠王書二件

恭親王割覆一附給英國照會一

右の内程學啓の函牘は多分幕僚の筆に成れる者であらうけれども、其他は大抵手筆である。但し李鴻章の分には手筆と代筆と兩様あるので、其の手筆の内批一通だけ撮影した。李鴻章の函牘批札はいづれも、李文忠公全集に載せられぬ者であり程學啓は勿論他の人々の函牘も、全く世に知られぬ者であるから、其の史料としての價値は非常なものと思ふ。一例を舉ぐれば李鴻章の告示の如き蘇州の髮匪を招降する際、ゴルドンは其の不殺を條件としたるに、李鴻章は程學啓の言を容れて、後に之を掩殺したので、ゴルドンは大に憤り、清廷の賞金壹萬兩を突返し、李鴻章を打ち殺すといつた騒ぎがあつた。この告示は李鴻章のゴルドンに對する過り證文ともいふべき者で、其の實物の現存せるは、興味あることである。

以上は即ち太平天國史料の概要であるが、其の詳細の發表は之を他日に期する。猶ほ此の邊録に

ついては、文學博士今西龍君、文學士石濱純太郎君同鴛淵一君等の補助を謝せねばならぬ。

こゝに附記したきは、歐州より歸つて後、一昨年、上海文明書局で出版した凌善清といふ人の編纂にかゝる太平天國野史を見ることを獲た。此書の内容も太平天國の内部の材料に據つたもので、從來支那本國に此種の材料の遺存して居ることはあまり知られて居なかつたが、其中の或ものは偶然にも大英博物館所藏のものと同ーなのがあるので、其他のものも大體信用して可なる者と思はれる。但し其の卷首に入れてある李忠王の吟喇に給した憑照は、吟喇が著した英文「太平亂」中の原本を用ゐてある處を見ると、本文も全部天國當時の材料から出たか否やといふとを多少疑はねばならぬやうになる。要するに此の如き真に近き史料が世に出づるやうになつたのは喜ぶべきことで、前清末の革命黨等が臆に憑せて作つた太平天國史と

は比べものにならぬ正確なものである。因つて此

の機會に於て之を清史研究家に紹介して置く。

明治天皇御幼時の御重患に就て

醫學士 三宅 宗 詮

醫學士 三宅 宗 雄

一、緒 言

吾が家醫を小兒科に業とする事父に於て既に九代、初代宗甫晩年より祖父八代宗甫中年に至る迄代々當地妙法院宮法親王御側醫を勤仕し、此間法眼、法橋に叙せられたる者四人、一門の共に叙任せらるゝ者合せて九人を算へ、特に召されて皇子、皇女の拜診に預れる事二代三度に及べり。就中曾祖父七代宗仙が申すも畏き御事ながら明治天皇御幼

名祐宮様と稱し奉りし頃拜診仰付けられしは今に至る迄子孫一門の無上の光榮とする所なり。然れ共此の曾祖父拜診の件は更なり、恐多くも明治天皇の御幼時御重患に涉らせ給ひし事實は明治の世にすら傳はらずして、唯吾が家の傳説として残るのみなるは誠に恐懼の極みなり。吾等兩人先きに學を京都帝國大學醫學部に了へ、將に父祖の遺業を繼承せんとするに當り、病臥十年、只管に皇室の萬歳をのみ祈願し奉れる父及今は既に亡き數に